

利 用 者 の た め に

1 . 地域特産野菜の生産状況（表式調査）

本調査は、農林水産省統計部による「野菜生産出荷統計」の調査対象品目（主要野菜39品目）となっていない野菜であって、生産量が比較的多いか、又は食生活の多様化に伴って生産が増加傾向にある、いわゆる地域特産野菜の平成14年産における栽培状況について、都道府県が調査した結果を、地方農政局等を通じて取りまとめたものがある。

従って、統計部の調査とは手法、精度が異なり、農林水産省の公式の数値ではないので取扱に注意されたい。

調査は、原則として平成16年1月末現在で行った。

本調査は、昭和43年～47年産の調査については、主産県（各野菜ごとに昭和41年産の全国の生産量の80%をカバーする都道府県）を対象として実施したが、産地の実態が大きく変化したことから、昭和49年産以降の調査については、全都道府県を対象として実施している。

2 . この調査の数値は、小数点第1位で四捨五入してある。従って、各数値の積み上げと全国計あるいは合計と一致しない場合がある。

なお、表中で使用した記号については、次のとおりである。

（0）……表示単位に満たないもの

（-）……該当のないもの

（…）……事実不詳又は未調査のもの

3 . 「加工用」とは、加工原料として加工業者により加工されることが確実に認められるものである。

4 . 「施設」とは、ガラス室及びハウスをいう。

「ガラス室」… ガラスで被覆された施設で、その中で栽培される作物の肥培管理を人が通常の作業姿勢でその中に入ったまま行いうる棟高を有するもの。

「ハウス」…… 塩化ビニールフィルム、ポリエチレンフィルム、硬質プラスチックフィルム、硬質プラスチック版、寒冷しゃ等のガラス以外のもので被覆された施設で、その中で栽培される作物の肥培管理を人が通常の作業姿勢でその中に入ったまま行いうる棟高を有するもの。

5 . 雨よけ施設及びトンネル栽培については、露地に含める。

「雨よけ施設」… 保温を目的とするのではなく、雨による作物のぬれ等を防止するとともに、かん水によって養水分吸収を適正に調節することを目的として、露地栽培において簡易なパイプハウスあるいは支柱兼用の簡易な傘型フレームで作物の上部のみを被覆するもの。

「トンネル栽培」... 上記４の「ハウス」で定める被覆資材で被覆された施設で、その中で栽培される作物の肥培管理を人が通常の作業姿勢でその中に入っていけない高さのもの。

６．「うど（露地）」及び「うど（伏込み）」の作付面積については、株養生面積（伏込み用の株養生地の面積分）を含まない。

７．「食用花(Edible flower)」は、食用に供する花の合計とし、本調査で別途調査している食用ぎく、食用ゆり及びナバナは除いたものである。

８．「ナバナ」（主として茎葉を食するもの）は、アスパラ菜、かき菜、コウサイタイ、サイシン等である。

９．「非結球レタス」は、レタスのうちリーフレタス（ブリーツレタス、サニーレタス等）、コスレタス、ステムレタス等非結球レタスの合計とし、いわゆるサラダ菜は除いたものである。

なお、当該統計値は、平成１４年産の「野菜生産出荷統計」のレタスの内数となる。

１０．「かんぴょう（ユウガオ）」の収穫量・販売量は、乾燥重量である。

１１．「とうがらし」については、ピーマン、ししとう等のいわゆる甘味種は含まない。
また、収穫量及び販売量は、乾燥重量である。

１２．「実えんどう」の作付面積については、「さやえんどう」と「実えんどう」の兼用の面積を含み、収穫量については、「実えんどう」のみの収穫量である。

１３．「マッシュルーム」の作付面積については、延栽培床面積である。

１４．「トングリ」、「ゼンマイ」、「タラノ芽」、「ワラビ」及び「ヤマゴボウ」については、栽培されたものである。

１５．「パプリカ」については、ジャンボピーマン等をいう。

１６．以下の１０品目については、従来調査してきた品目であるが、平成１４年産から「野菜生産出荷統計」の調査対象品目となったため、野菜生産出荷統計の数字を利用している（統計の連動性はないので注意いただきたい）。

「アスパラガス」、「こまつな」、「しゅんぎく」、「チンゲンサイ」、「にら」、「にんにく」、「根しょうが」、「ふき」、「未成熟そらまめ」、「みつば」

